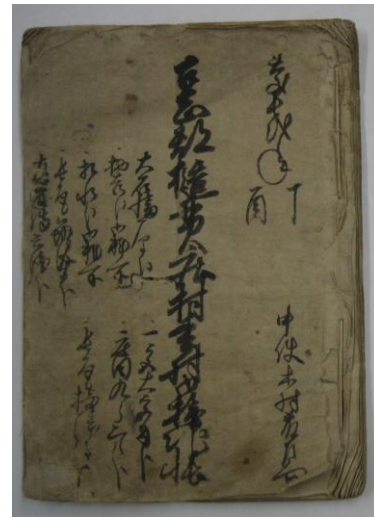
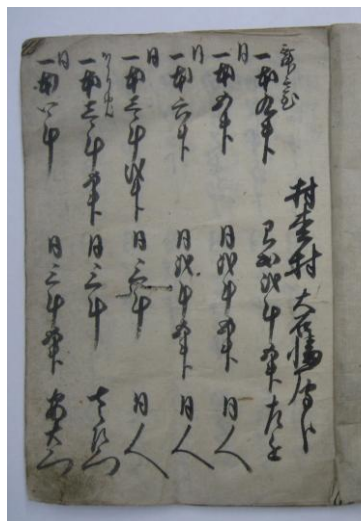
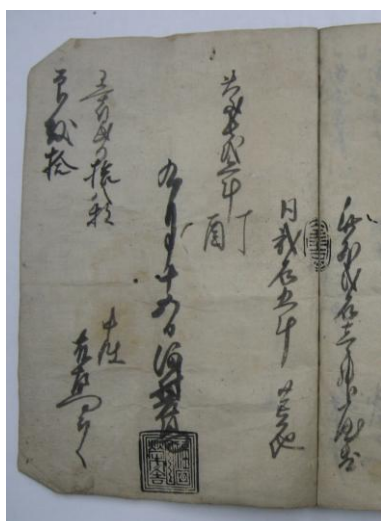


新出の慶長 2 年（1597）古志郡村松村「河村検地帳」について

名 称：古志郡村松村御検地帳（慶長 2 年「河村検地帳」）
 員 数：1 冊
 種 別：有形（古文書）
 所 在 地：長岡市長倉西町 458 番地 7 長岡市歴史文書館（寄託資料）
 所 有 者：個人
 概 要：江戸時代の長岡藩上組の割元をつとめた古志郡村松村（現長岡市村松町）の金子家に伝来した慶長 2 年（1597）の「河村検地帳」である。「河村検地帳」は、慶長 2 年に上杉景勝の執政直江兼続が家臣（与板衆）の河村彦左衛門尉を検地奉行として行った検地の結果を記録したものである。
 長岡市域に関わる「河村検地帳」としては、①安禅寺文書（安禅寺所蔵、長岡市歴史文書館寄託）、②京都大学法学部所蔵文書（六日市村検地帳）、③年友村（寺泊地域）の五十嵐家文書（個人蔵、寺泊支所寄託）、④大地村（同）の山田家文書（個人蔵）、⑤小豆曽根村（同）の竹内家文書（個人蔵）が知られ、①のうち 10 冊、③④のうち各 1 冊は長岡市指定文化財（有形文化財（古文書））である。
 本資料は、令和 3 年（2021）10 月に所有者から相談を受けた長岡市歴史文書館（当時の名称は長岡市立中央図書館文書資料室）が所在を確認。令和 6 年 6 月に開催された同館の常設展「直江兼続の時代の検地帳」で展示された。長岡市史編集委員会中世史部会は、「河村検地帳」をはじめとする中世末から近世初期の検地帳の分析をとおして、中世の村の復元的研究を試みている。本資料は、「河村検地帳」の原本（末尾に黒印がある）であり、かつ『新潟県史』『長岡市史』などの自治体史に未収録の新出資料であるため、市域の中世史研究に新たな視角が加わる可能性がある。



※主な参考文献：長岡市史双書No.10『村は北谷にあったー長岡市村松町の中世を歩くー』（平成 2 年）、同No.18『検地帳に中世を読む』（平成 4 年）、『寺泊町史』資料編 1（平成 3 年）、『長岡市史』資料編 2（平成 6 年）、同通史編上巻（平成 8 年）、『長岡の文化財』（平成 26 年）、田中聡「河村彦左衛門尉とは何者か」『日本歴史』855（吉川弘文館、令和元年）
 ※新聞掲載：「長岡新聞」令和 6 年 7 月 2 日付記事（長岡市歴史文書館の常設展の紹介）
 ※令和 8 年度に活字化を予定

長岡市指定文化財 慶長 2 年(1597)「河村検地帳」 一覧

○河村検地帳〔所有者/安禅寺（長倉西・長岡市歴史文書館）〕

No.	名称	指定年月日	安禅寺文書 目録No.	長岡市史双書 No.18 掲載頁	備考
1	古志郡大嶋庄内小楚根村御検地帳	昭和 47 年 3 月 23 日	63	134-136p	原本
2	頸城郡高津郷吉岡村御検地帳		64	未収録	
3	古志郡四郎丸村御検地帳		65	143-144p	
4	古志郡新町村御検地帳		66	155-156p	
5	古志郡宮内村御検地帳		67	155-156p	
6	古志郡上条村御検地帳		68	154-155p	
7	古志郡稲葉村御検地帳		69	125-126p	
8	古志郡片貝村御検地帳		70	58-59p	
9	古志郡桂沢村蔵王分御検地帳		71	28-41p	
10	古志郡大嶋庄川崎村御検地帳	平成 12 年 3 月 24 日	21	141-143p	

○年友 五十嵐家文書〔所有者/個人（寺泊吉・寺泊支所）〕

No.	表題	指定年月日	『寺泊町史』 資料編 1 掲載頁	備考
11	蒲原郡年友村御検地帳	昭和 54 年 3 月 29 日	364-366p	

○大地 山田家文書〔所有者/個人（寺泊大地）〕

12	蒲原郡大地村御検地帳	昭和 59 年 4 月 1 日	354-364p	
----	------------	-----------------	----------	--